

春愁

松本西夏

春愁の胸を過れるなにもなし
春愁の空むらさきに暮れはじむ
鳥渡るそこはかとなき春愁に
ただぎまの雲湧き流る春昼に
碧空に十日抱かれ桜散る
街灯に吹雪くがごとく落花急
空高く桜散りゆく手を振れば
水に浮き生きつぐものに余寒なお

四月 尽雨に朱を増す土器の片
カワセミの飛翔一閃息を止め
カワセミの風切る音や眼裏に
春一番二番三番星荒るる
春一番万国の旗吹き振る
春嵐置き場の自転車倒れ伏し
露宇戦の罵詈雑言や春遠し
木枯らしや邪推殺戮偽の旗
立ち居して鳩春塵に吹かれおり
緑陰の甕に夜来の雨満てり
逝く春のニュースは今朝の震度強
地を揺らす長き画面や春の朝